



ブロックML活用企画！

災害支援コラム

VOL.
01

20 Apr, 2025

column

～ 期間限定配信「平時の備えコラム」VOL.1 “支部内での備え” ～

平素より大変お世話になっております。災害支援体制整備・復興支援委員会の河合です。

現在試行的に運用しております『ブロック単位での災害対策委員ML』の活用について、平时に工夫ができないかと委員会で思案し、2025年度上半期に委員会の委員が分担しコラム的なものを発信することといたしました。平時の備えの一助になれば幸いです。「全国規模の災害対策委員MLで一斉に発信すれば良いのでは！？」という声が聴こえてきそうではありますが…。



『ブロック単位での災害対策委員ML』は、過去のブロック災害対策連絡会等で寄せられた御意見から設定されました。「全国規模の災害対策委員MLへは発信を躊躇する。」「発信の目安になっている基準（避難指示の発令、震度5強の地震）には満たないが隣県が心配。」等という状況で活用いただければと考えておりましたが、現時点での運用は低調と感じております。もちろん目的と手段を履き違えてはならず、皆さまの負担を増やすことは本意ではありません。なにかしらを発信するために頭を悩ませ、心労になっては本末転倒です。

活用方法の一例として、平时に「支部の災害対策委員で集まり、計画の見直しをしました。」や「来月、災害関連の研修をします。テーマは〇〇です。」「支部内で他の職能団体と連携するようになりました。」等、お互いの支部の備えの参考になるような情報発信を意識していただだけでも良いと思っております。全国災害対策委員講習会やブロック災害対策連絡会でも、他支部の取り組みを知り自支部の備えに資する機会になりますが、開催がそれぞれ2年に一度です。災害が頻発する昨今、身近な手段として『ブロック単位での災害対策委員ML』も選択肢に入れていただきますようお願い致します。

閑話休題。支部において、支部構成員の方々へ災害対策計画は浸透していますか。災害対策委員の皆様や支部長さんを中心に災害対策計画に沿った活動をされていると思いますが、その根幹となる災害対策計画の存在と内容が周知されていますでしょうか。関心や意識の持ち方に濃淡はあると思いますが、少しでも多くの方に支部災害対策計画について知っていただくこと、現状に即した形にブラッシュアップしていくことが災害支援体制を強化し、復興を後押しする力強い一歩につながります。平时にこそ支部の備えを進めるような機会を作っていただければ幸いです。

支部総会などもその好機になるでしょうか。新しく何かを作ることは労力が必要ですが、既存の取り組みに一工夫するだけでも十分です。できることをできるだけ、各地で備えを進めましょう。

Editor's note

災害支援体制整備・復興支援委員会
委員長 河合 宏（岡山県支部）

阪神淡路大震災の時、河合は高校生でした。高校生だから、と言いつてはできないのですが、当時なにかをしたという記憶はありません。きつとなにもしなかったのでしょうか。東日本大震災の時には、心のケアチームの一員として南三陸町に行きました。しかし、十分なことはできませんでした。その後は、泥を撤去するボランティアとして、DWA Tの一員として、被災した地域とそこで暮らす方のことを思いながらできることを続けてきたつもりです。これからも自分にできる範囲のことを続けていきたいと思っています。

